

ブラジル 2024-25年度オレンジ出荷量の最新予測は2億2,300万箱

[FreshFruitPortal](#) 2024年12月12日

ブラジルの柑橘類栽培防衛財団(Fundecitrus)は、サンパウロ州並びにミナスジェライス州の「三角地帯」(西部)及び南東部の柑橘類地帯(柑橘類ベルト)における2024-25年度のオレンジ収穫量(40.8kg/箱)を合計2億2,314万箱と予測する第2回改訂予測を発表した。

この数字は、9月に発表された第1回改訂予測(2億1,578万箱)より3.4%多いが、5月の最初の予測値(2億3,238万箱)より4.0%少ない。

Fundecitrusが集めたコメントの中で、農学技術者で同財団の事務局長であるジュリアーノ・アイレス氏は、この出荷シーズンは「完全に異例」であり、過去9回の作柄推計調査(EEC)のすべてと異なると強調した。同氏は、4回目の開花が非常に多く、2億2,314万箱のうち2,023万箱、すなわち総生産量の9.1%を占めた(当初の推定では7.1%)と述べた。

報告されているとおり、この4回目の開花の果実の多くは2025年1月から4月のオフシーズンに収穫され、最初の3回の開花による果実よりも重量が軽くなる(それぞれ161グラム及び126グラム)。

3月14日から4月26日にかけて2,560本のオレンジの木の葉を除去して実施された最初の調査では、4回目の開花で果樹1本当たり32個の果実が着果すると推定された。しかし、9月23日から10月25日の期間に追加の520本の果樹で実施された2回目の調査では、果樹1本当たりの着果数は54となることが示された。

遅い降雨が収穫に与える影響

4回目の開花の影響に加えて、10月と11月の大雨(過去の平均より85ミリ多い)が、すべての品種で果実の成長に貢献した。

しかし、この雨は遅すぎた。この地域では、11カ月連続で降雨量が平均を下回っていた。その結果、予想される平均果実重量は5月の169グラムから9月には155グラムに減少し、最新の推定では156グラムにわずかに増加した。

すべて(1回目~4回目)の開花による果実を対象に品種別に分析すると、9月の予測と比較して重量の増加を示した唯一の品種はペラオレンジ(Pera orange)であった。

アイレス氏によると、オレンジの総出荷箱数の第2回改訂予測は、主に落果率が18.50%から19%に増加したことにより、5月の予測を下回った。これは主に、カンキツグリーニング病や機械化された作業、特に剪定に起因するものとされている。

この落果率の増加に影響を与えるもう一つの要因は、4回目の開花による生産量が予想以上に多かったことである。これにより、収穫期間が例年に比べて長くなり、落果による損失が悪化する可能性があると考えられる。

レポート全文は [こちら](#)